

低濃度オゾン、コロナ感染防止に有効 藤田医科大が確認

8/26(水) 18:52 配信

産経新聞

新型コロナウイルスの感染力が、人体に無害な低濃度のオゾンで大幅に弱まることを藤田医科大の研究チームが実験で確認し、26日に発表した。9月初旬から同大の大学病院（愛知県豊明市）の待合所や病室などでオゾンの発生装置を使い、感染リスクの低減につなげる。オゾンは3つの酸素原子からなる気体で、インフルエンザウイルスの感染拡大防止などへの有効性が知られている。実験では、密閉して湿度を約80%に保った容器内に、ウイルスを付着させたステンレスを設置。人体に安全とされる0.1ppm（1ppmは100万分の1）の低濃度のオゾンが発生させたところ、10時間後には感染力を保っているウイルスの量が4.6%まで大幅に減少した。この量で感染する可能性は、かなり低いという。湿度が高いほど有効で、55%程度まで乾燥させると、10時間後でもウイルスの約3分の1が感染力を保ち続けた。湯沢由紀夫病院長は「冬は加湿器を用いるなどの工夫が必要だろう」と指摘する。オゾンの発生装置は市販されているが、濃度が高いと人体に有害で、研究チームは「低濃度かつ適切な濃度管理ができる機器を使ってほしい」と注意を呼び掛けている。

https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000191603.html

テレ朝 NEWS

新型コロナを不活化 低濃度のオゾンで感染力減か [2020/08/26 17:23]

新型コロナウイルスの感染力を減少させる効果を発表です。

藤田医科大学医学部の村田貴之教授の研究グループによりますと、オゾンは新型コロナウイルスに触れると細胞壁を破って感染力を低減する作用があるといいます。研究グループは人体に害がないとされる0.1ppmのオゾンで実験した結果、湿度が高い空間で発生時間が長ければ長いほどウイルスの感染力を弱める効果がより高まったということです。藤田医科大学病院では病室などに低濃度のオゾンが発生させる機械を置いて二次感染を防ぎたいとしています。